

国大協に聞く!

新入試対応の背景は?

Q 新入試への「基本方針」を 発表した意図は?

A 入試改革の推進と受験生の混乱軽減などのためです。

国立大学全体の入試改革を推進するだけでなく受験生の混乱を軽減することも狙いの一つです。国立志願者は、受験先を国立大学間で迷うことが多いと考えられます。大学ごとに入試制度がバラバラでは、受験生は受験先を選ぶことが難しくなります。各大学の方針は尊重しながらも、それが一定範囲に収まるように、目安として「基本方針」「ガイドライン」「参考例」を示しました。それぞれの内容は、各大学への意見照会を重ねて決めました。

Q 大学入学共通テストへの 具体的な対応は?

A ガイドラインや参考例で示しています。どの大学・学部でも高校での履修内容が入試のベースであるため、一般選抜の第一次試験で「原則5教科7科目を課す」という方針はセンター試験から引き継ぎます。

英語の外部検定に関しては、高校生への定着や有効性の検証を並行して行う必要があるため、共通テストと併用することとしました。活用パターンとして、共通テストとの併用が可能な「出願資格」「加点」「出願資格＋加点」のいずれかを挙げています。

加点の割合については、最高点を「総得点の2割」以上という数値を記載しましたが、

これはあくまで参考例です。実際には各大学が、アドミッション・ポリシー(AP)や育成方針に応じて検討してほしいと思います。国語の記述式問題についても基本的な考え方は同様です。

Q 個別試験についての方針は?

A 一般選抜で「高度な記述式試験」を課すなどの方針を示しています。

論理的思考力・判断力・表現力等を育む教育への改革を幅広く推進するため、個別試験で高度な記述式問題を課す方針を示しています。具体的な方法は各大学の創意工夫に期待しています。

調査書の活用については、各大学がこれまで積み重ねてきた推薦・AO入試での活用実績をふまえて、よりよい方法を考えていきます。電子化も検討されていますので、高校や大学のニーズを聞きながら具体的な方法や導入時期を探っていきます。

Q 入試改革に関する 国立大学の課題は?

A 推薦・AO入試の拡大などがあります。

2021年度までに入学定員に占める推薦・AO入試の割合を3割に高めようとしています。達成している大学は全体の1割程度です。後期日程の募集人員を推薦・AO入試に振り分ける方法も視野に入れ、両入試の拡大を進めています。

一方、分離分割方式の廃止(前期日程へ

(一社)国立大学協会
専務理事

山本 健慈

やまもとけんじ ●和歌山大学学長を経て現職。同大学名誉教授。学長時代、地方国立大学の活性化に向けて数々の提言を行う。専門は教育学。



の一本化)は、検討課題として捉えてはいますが、社会に根づいた制度でもあり、当面は難しいだろうと考えています。

Q 入試改革に取り組む 大学にメッセージを

A 初めての取り組みのため対話を大切に。発表した内容は各国立大学の賛同を得ていると捉えていますが、初めての取り組みも多く、実施段階ではさまざまな課題が出てくることでしょう。一つひとつ丁寧に解決するほかなく、全学規模の対話が不可欠です。

受験生にとっては大きなことですから、一度発表した内容を後から撤回するような事態は避けるべきです。ただし、いったん決めた着地点を唯一の正解、到達点と固執しすぎないことです。環境変化をふまえ、よりよい制度にするために、絶えず見直しを図ってほしいと考えています。

私たちが、今回の基本方針等の提示で役割が終わったとは考えていません。今後さらに具体的な内容が明らかにされるのに合わせて必要な対応を行います。新入試が始まった後もその結果を検証しつつ、次期学習指導要領に基づく入試が実施される2024年度以降に向けてさらなる改善のあり方について検討を行っていきます。

国立大学協会が示す新入試への対応の要点

英語4技能の評価	記述式問題の扱い	各大学の個別試験
<p>基本方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 共通テストと外部検定の両方を全受験生に課す。 <p>ガイドライン</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 外部検定は、センターが認定した全検定を対象とする。 ▶ 活用パターンは、「出願資格」「加点」「出願資格＋加点」のいずれかを基本とする。 <p>参考例</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 「出願資格」の場合は、例えばCEFRのA2以上を基準とすることが考えられる。 ▶ 「加点」の場合は、最高点を例えば英語の総得点の2割以上とすることが考えられる。 	<p>基本方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 記述式問題を含む国語および数学を一般選抜の全受験生に課す。 <p>ガイドライン</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 国語は、段階別成績表示の結果を点数化して加点する。 ▶ 数学は配点に含まれるため、従来のマークシート式と同様の扱いとする。 <p>参考例</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 国語の加点は、最高点を例えば国語の総得点の2割程度とすることが考えられる。 	<p>基本方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 一般選抜で高度な記述式試験を課す。 ▶ 調査書や受験生本人が書く資料等を活用する。 ▶ 分離分割方式は、2024年度入試まで継続する。 ▶ 総合型選抜、学校推薦型選抜の取り組みを加速・拡大する。

* 国立大学協会資料を基に編集部が作成 基本方針:「平成32年度以降の国立大学の入学選抜制度－国立大学協会の基本方針」2017年11月
ガイドライン:「大学入学共通テストの枠組みにおける英語認定試験及び記述式問題の活用に関するガイドライン」2018年3月
参考例:「大学入学共通テストの枠組みにおける英語認定試験及び記述式問題(国語)の活用当たりの参考例等について」2018年6月